

産婦人科

《概要》

平成20年度より、市立貝塚病院産婦人科との集約化が成り、4月から泉州広域母子センターとして再編され、当科は周産期センター産科医療センターとしての機能を担う事になりました。

婦人科手術と悪性腫瘍の化学療法は貝塚病院に産婦人科医が行って行い、当院では夜間休日の産婦人科一次・二次救急、分娩、母体搬送、産科手術を担当しています。6階山側病棟は泉南地区の分娩を集約した周産期専門の施設として生まれ変わりました。

これにより以前にも増して小児科、内科、外科、救命センター等との緊密な連携のみならず泉州地域の産婦人科医院との病診連携も強め、ハイリスク妊娠の集学的管理や早産児の受入などしています。対外的にはOGCS(産婦人科相互援助システム)準基幹病院となり、母体の緊急搬送受入数も8月のフルオープン以来68件に増加しました。

外来診療体制は従前と変わらず、産科・婦人科ともに初診再診を受けることにしています。現在、特定妊婦、更年期、腫瘍、思春期外来など専門性の高い外来診療を続けています。また平成13年度より開始した助産婦外来は今後の妊産褥婦指導の中心となるべく、助産婦の特性を生かした外来づくりを行っております。

これに伴い、前部長の光田信明が大阪府立母子センターに主任部長として転出し、荻田和秀が産科医療センター長として着任しました。

今後は全国的にも注目されているこのシステムを発展させ、広域に亘る中核病院としての役割を果たせるように間断なき努力をしていきます。

《実績》

疾患統計

		H16	H17	H18	H19	H20
総分娩数		866	742	726	684	1,056
産科手術	帝王切開術	201	189	186	179	269
	頸管縫縮術	4	1	3	1	3
	流産手術※	11	19	18	8	39
	その他	1	7	6	3	8

《業績》

(1) 原著、総説、著書(2008.4~2009.3)

番号	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	救急車内における妊婦の観察と対応	光田信明 久松武志 藤森由香	エマージェンシー・ケア	Vol 21 (12)	1171	2008
2	救命救急センターにおける重症妊婦への対応①	中堀泰賢 小倉裕司 荻田和秀	エマージェンシー・ケア	Vol 21 (12)	1179	2008
3	細菌性膣症	荻田和秀	ペリネイタルケア	通巻 359号	14	2009
4	周産期心筋症	荻田和秀	ペリネイタルケア	通巻 359号	243	2009

(2) 学会研究会報告 (2008.4~2009.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	当院における未受診妊婦への対応	久松武志	第2回「周産期医療研修会」	2008.7.19
2	泉州広域周産期母子医療センターの発足	光田 信明	第2回「周産期医療研修会」	2008.7.19
3	「病院集約化でいかに病院機能が向上したか」	荻田和秀	周産期・救急医療 専門家会議	2009.3.1

(3) 学術講演 (2008.4~2009.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	発表場所及び対象	年 月 日
1	不思議のホルモンオキシトシン	荻田和秀	泉州産婦人科医会	2008.11.8

(4) 院内研究活動 (2008.4~2009.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	年 月 日
1	泉州地域で周産期医療が生き残っていくために	荻田和秀	2008.11.15